

令和 6 年度 1 学期

府中市標準学力調査
考察資料

中学校

調査目的

●府中市内の中学校生徒の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

●調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 府中市内の中学校の1・2・3年生の生徒
- 調査対象教科は、国語・社会・数学・理科・英語

◆用語について

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

目標値（目標標準評価方式のみ）

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

「思考・判断・表現」が良好である

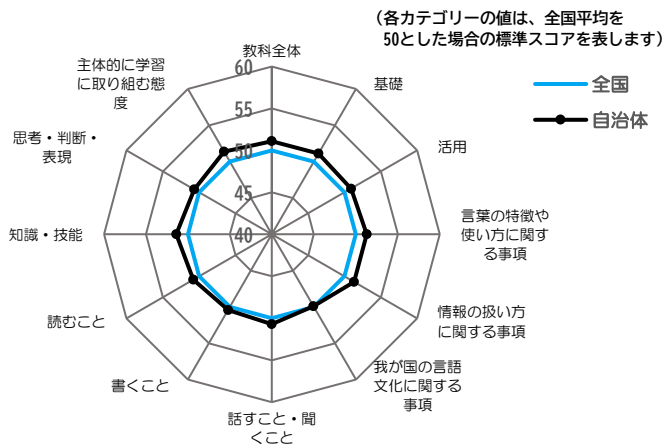
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		59.6	63.4	
基礎		63.5	67.0	
活用		52.2	56.7	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	63.0	64.5	
	情報の扱い方に関する事項	53.3	62.0	
	我が国の言語文化に関する事項	75.0	78.7	
	話すこと・聞くこと	65.0	69.2	
	書くこと	50.7	54.6	
	読むこと	57.5	63.8	
	知識・技能	61.8	65.0	
観点別	思考・判断・表現	55.9	60.8	
	主体的に学習に取り組む態度	46.0	50.6	

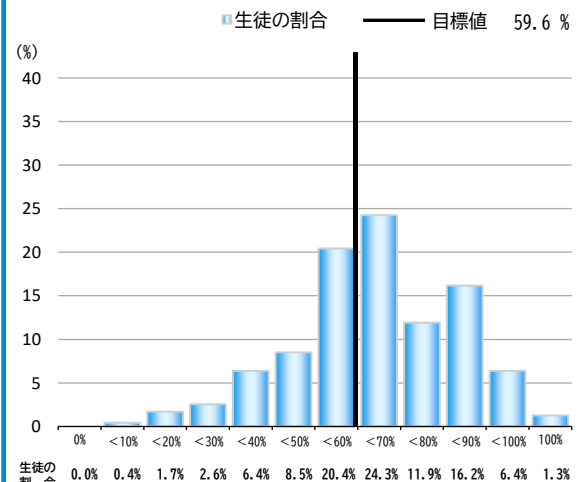
分析 コメント

- 中1国語は、教科全体の正答率が63.4%で、目標値を3.8ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が60.8%で、目標値を4.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)③

<ねらい>

小学校で学習した漢字を正しく書いている。

目標値 75.0% 正答率 68.1% 差 ▲ 6.9 ポイント

指導のポイント

漢字に習熟させるためには、日頃から生徒が漢字に触れる機会をできるだけ増やす必要がある。特に漢字を書く力を養うためには、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる習慣を身に付けていくことが重要となる。文脈に即して漢字を適切に用いることができるよう、授業において意図的に取り上げるなどの工夫をしながら、学習させることが大切である。

文章を書く

大問7

<ねらい>

段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。

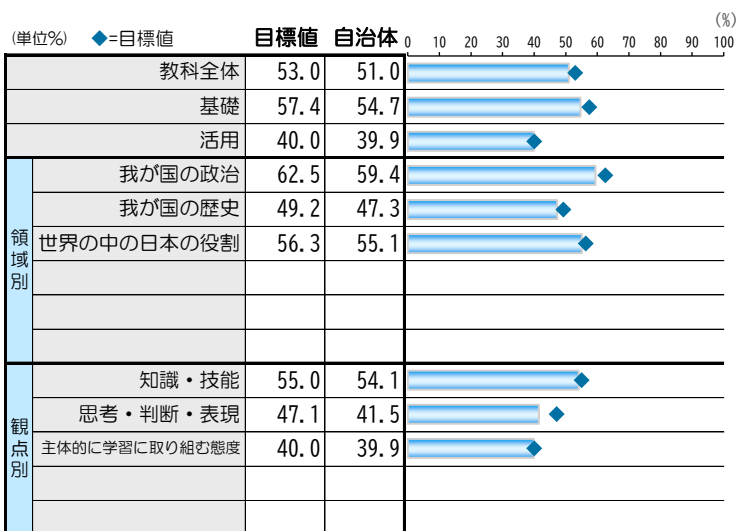
目標値 50.0% 正答率 47.2% 差 ▲ 2.8 ポイント

指導のポイント

文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題である。本問では、第一段落に、資料から読み取ったことを書くこと、第二段落に、AとBのどちらの意見に賛成か、自分の立場と、その理由を書くことが求められている。2段落構成には、いくつかのパターンがあるので、書く練習を繰り返し行い、基本的な書き方に習熟させる必要がある。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

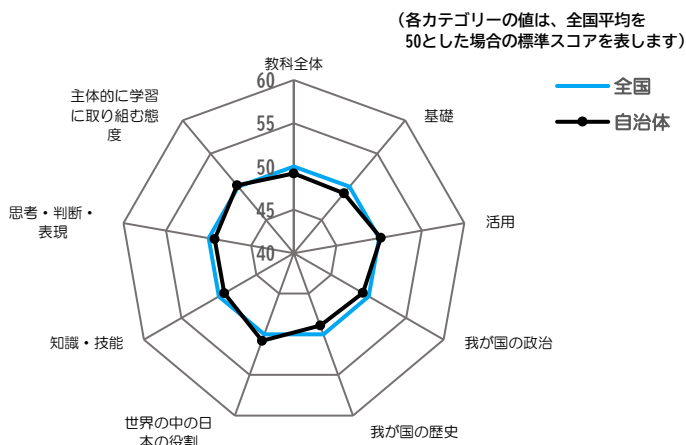
正答率一覧



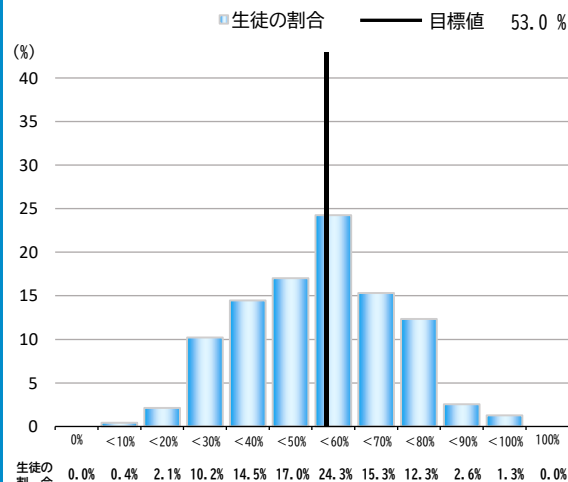
分析 コメント

- 中1社会は、教科全体の正答率が51.0%で、目標値を2.0ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「思考・判断・表現」が41.5%で、目標値を5.6ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

明治時代～昭和時代

大問6(1)

<ねらい>

明治時代から大正時代までの歴史の流れについて考察している。

目標値 30.0% 正答率 9.8% 差 ▲ 20.2 ポイント

指導のポイント

小学校第6学年の歴史学習においては、歴史上の細かな出来事や年号などを覚えさせることよりも、我が国の歴史に対する興味・関心をもたせて、歴史を学ぶ楽しさを味わわせ、その大切さに気付かせることを重視した。中学校の歴史的分野の学習においては、細かな出来事や年号などを覚えさせながらも、歴史の大きな流れをつかむように指導していきたい。中学校の学習では、小学校の学習内容を振り返りながら、小学校で学習した人物・文化財・出来事を「歴史の流れ」の中で捉えることが大切である。

日本国憲法

大問1(3)

<ねらい>

国民の権利及び義務について理解している。

目標値 50.0% 正答率 37.4% 差 ▲ 12.6 ポイント

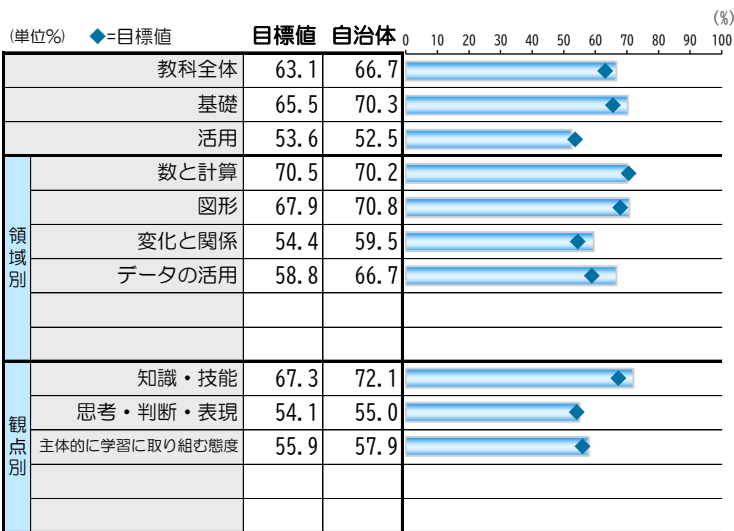
指導のポイント

日本国憲法の三大原則の一つに、「基本的人権の尊重」が掲げられている。基本的人権には、平等権、自由権、社会権などのほかに、参政権や裁判を受ける権利といった、人権保障を確かなものにするための権利があることを押さえさせたい。また、国民の三つの義務（子どもに普通教育を受けさせる義務、勤労の義務、納税の義務）についても、確実に押さえさせる必要がある。子供に教育を受ける権利があるだけでなく、保護者には子供に普通教育を受けさせる義務があること、勤労は、国民の権利であると同時に義務でもあることを理解させることが大切である。

中1 数学

「知識・技能」が良好である

正答率一覧

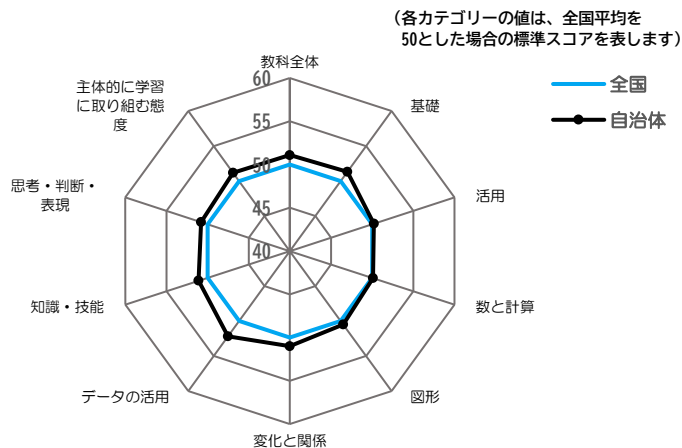


分析 コメント

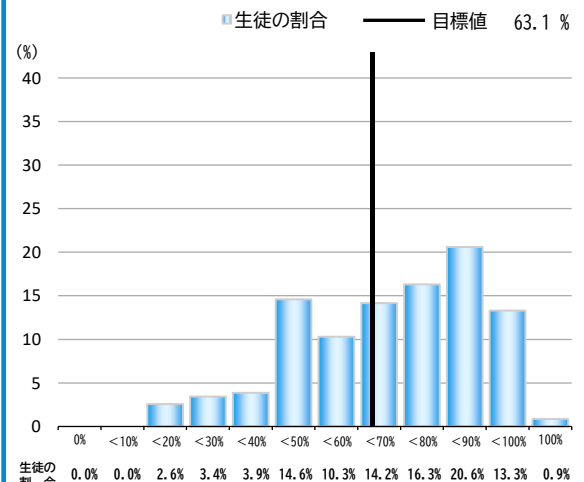
中1数学は、教科全体の正答率が66.7%で、目標値を3.6ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「知識・技能」が72.1%で、目標値を4.8ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

百分率

大問20(3)

<ねらい>

もとにする量の大きさが違うとき比べる量の大小と割合の大小は一致しないことを、具体的に説明することができる。

目標値 30.0% 正答率 6.4% 差 ▲ 23.6 ポイント

指導のポイント

誤答の主な原因としては、割合について習熟していないこと、割合については理解しているが、どのように説明したらよいのか分からないことなどが考えられる。表1から年度ごとのバイオエネルギーの割合を計算し、割合は2倍になっていないことを説明する方法と、バイオエネルギーの発電量がおよそ2倍になっているが、自然エネルギーの発電量もおよそ2倍になっていることから、割合は2倍になっていないことを説明する方法があることを理解させる。「説明しなさい」＝「難しい」と考える生徒の苦手アレルギーを取り除く指導も大切である。

小数・分数の計算

大問3(3)

<ねらい>

異分母分数の加法（約分なし）の計算ができる。

目標値 80.0% 正答率 69.1% 差 ▲ 10.9 ポイント

指導のポイント

異分母分数の加法は、単位をそろえないと計算できないことを押さえる。本問では、 $\frac{1}{3}$ の単位が $\frac{1}{5}$ の単位にそろえられれば計算できるが、どちらもできない。そこで、分数の単位をそろえる通分により、分母をそろえること、通分のための最も簡単な方法は、両方の分母どうしをかけ合わせることであることを理解させたい。本問の場合、 $3 \times 5 = 15$ で、 $\frac{1}{15}$ を単位とした分数に変換する。そうすると、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{10}{15}$ 、 $\frac{3}{5}$ は $\frac{9}{15}$ に変換できるから、 $\frac{10}{15} + \frac{9}{15}$ の式を計算させて、答えを求めさせればよい。

「思考・判断・表現」が良好である

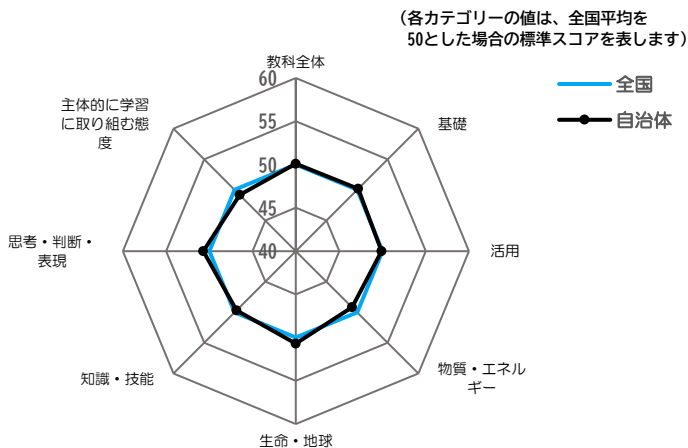
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		63.1	67.2	
基礎		67.0	69.9	
活用		54.5	61.4	
領域別	物質・エネルギー	60.4	59.9	
	生命・地球	64.8	71.6	
観点別	知識・技能	66.1	66.5	
	思考・判断・表現	58.8	68.3	
	主体的に学習に取り組む態度	62.5	67.2	

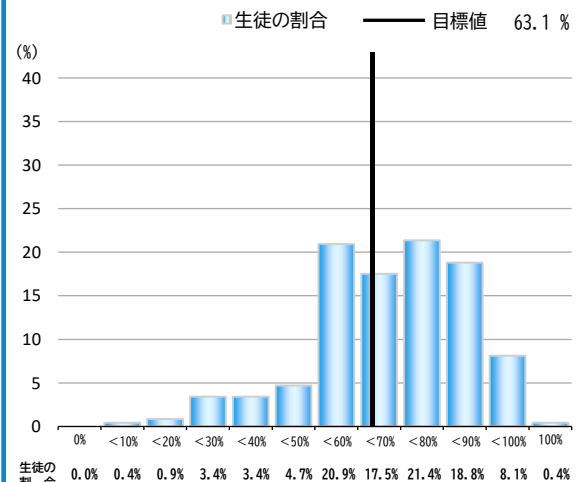
分析 コメント

- 中1理科は、教科全体の正答率が67.2%で、目標値を4.1ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が68.3%で、目標値を9.5ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

水よう液の性質

大問9(1)

<ねらい>

蒸発させたときに何も残らなかった水溶液には、気体が溶けていることを理解している。

目標値 50.0% 正答率 16.2% 差 ▲ 33.8 ポイント

指導のポイント

水溶液の性質の違いについて理解させるためには、①臭いのあるもの、ないもの、②蒸発させたとき、白い物が残るもの、何も残らないもの、③塩酸を注いだとき、泡の出るもの、出ないもの、④リトマス紙の色変化で赤になるもの、青になるもの、変わらないものなど、生徒自身が観察や実験の結果から判断する活動を強化するとよい。本問では、気体が溶けている水溶液を蒸発させたときは、何も残らないことを確認させる必要がある。

生物とかんきょう

大問6(1)②

<ねらい>

動物の食べ物のもとをたどると、最終的に植物にたどり着くことを理解している。

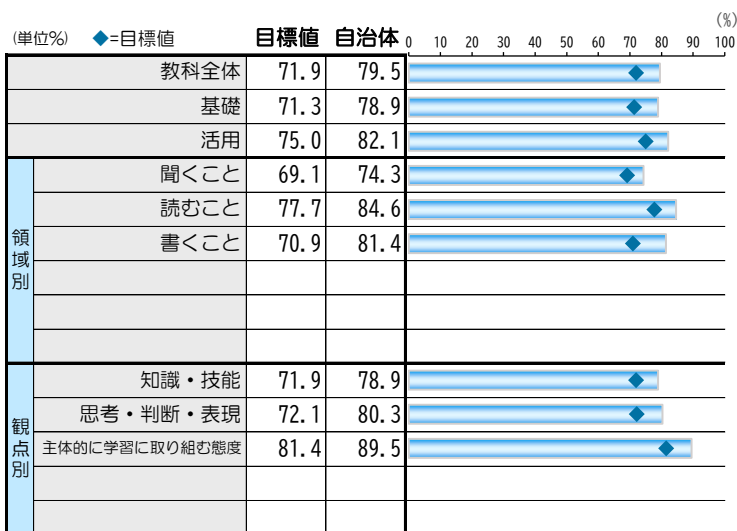
目標値 70.0% 正答率 59.8% 差 ▲ 10.2 ポイント

指導のポイント

人や他の動物の食べ物の元をたどると、全て植物に行き着くことを捉えさせることが大切である。生き物どうしは、食べる、食べられるという関係で、鎖のようにつながっており、これを食物連鎖ということを確認させる必要がある。さらに、食物連鎖における生き物のつながりについて、具体的な例を挙げられるよう理解を定着させたい。

「思考・判断・表現」が良好である

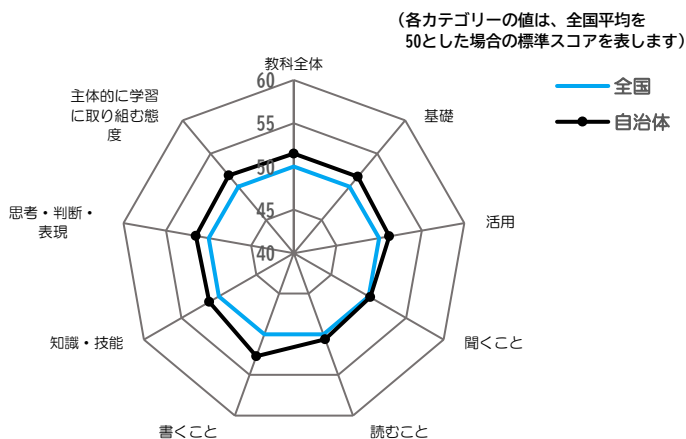
正答率一覧



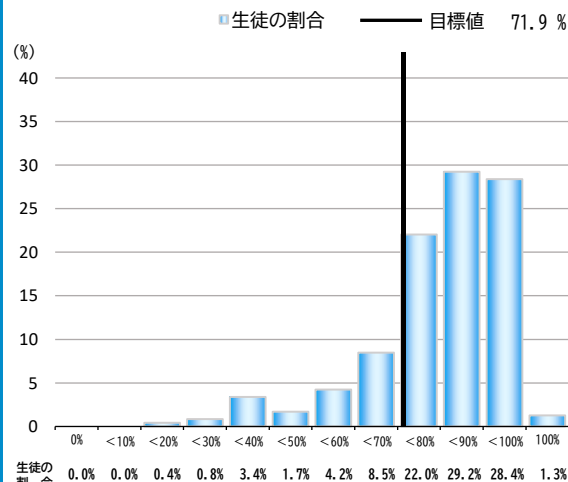
分析 コメント

- 中1 英語 A は、教科全体の正答率が79.5%で、目標値を7.6ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が80.3%で、目標値を8.2ポイント上回った。

カテゴリ間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

日常会話の理解（聞く）

大問4(4)

<ねらい>

身近で簡単な事柄についての英文を聞き、その内容を理解している。(できることとできないこと)

目標値 30.0% 正答率 19.1% 差 ▲ 10.9 ポイント

指導のポイント

動作動詞については、1日の生活を表現する単元で扱われることが多い。まず、自分の生活リズムに組み込まれた動作の表現について、確実な定着を図るとよい。ただし、それだけでなく、視野を広げて、そこにはない動作を含めた、さまざまな生活の様子を英語で表現する方法を理解させることも必要である。また、助動詞については、canとcan notだけで理解していると、短縮形(can't)が出てきたときに聞き分けられない可能性があるため、日頃からcanとcan'tの聞き分けについても指導しておきたい。

会話全体の理解（聞く）

大問7

<ねらい>

部活動についての対話を聞き、具体的な情報を聞き取っている。

目標値 70.0% 正答率 69.9% 差 ▲ 0.1 ポイント

指導のポイント

複数回、往復する会話文の場合には、誰と誰が何を話しているのかを正確に把握する必要がある。リスニングの前に、問題文やイラストから会話の状況を把握しておくことが大切である。さらに、会話文はテンポよく発話者が変わるため、全ての英文を聞き取ろうとすると、分からない単語が出てきた場合に混乱してしまう。途中で諦めることなく最後まで聞くことで、会話の内容を理解できる場合が多いことを指導したい。本問でも、ゆりあとボブの最後のやり取りさえ聞き取れば、正答を選ぶことができる。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

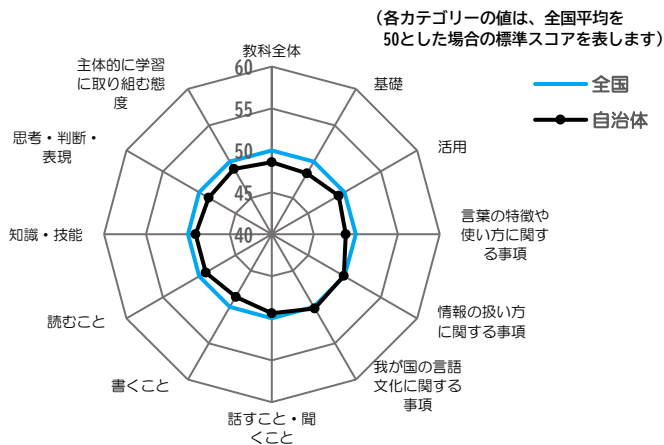
正答率一覧

(単位%)	◆=目標値	目標値	自治体	(%)
教科全体	63.5	62.6		
基礎	67.9	67.5		
活用	55.0	53.3		
領域別				
言葉の特徴や使い方に関する事項	70.6	69.1		
情報の扱い方に関する事項	62.5	67.4		
我が国の言語文化に関する事項	85.0	89.3		
話すこと・聞くこと	56.7	53.4		
書くこと	58.8	57.0		
読むこと	59.2	61.2		
観点別				
知識・技能	70.4	70.5		
思考・判断・表現	58.1	57.2		
主体的に学習に取り組む態度	51.0	44.4		

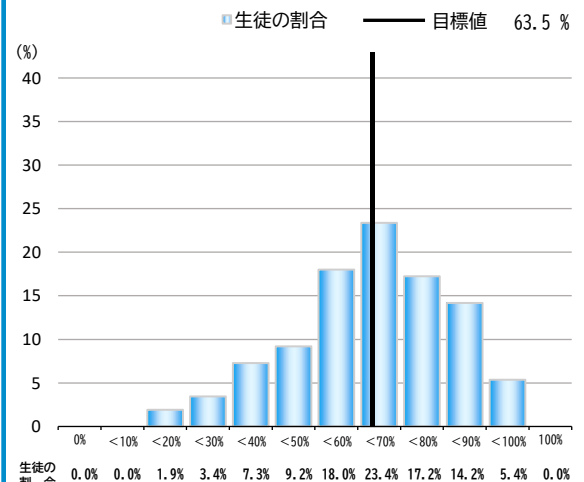
分析 コメント

- 中2国語は、教科全体の正答率が62.6%で、目標値を0.9ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が70.5%で、目標値を0.1ポイント上回った。一方、「主体的に学習に取り組む態度」が44.4%で、目標値を6.6ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文法・語句に関する事項

大問3(3)

<ねらい> 漢字の部首について理解している。

目標値 40.0% 正答率 14.9% 差 ▲ 25.1 ポイント

指導のポイント 漢字の部首については、小学校で学習している。それを踏まえて、中学校でも、漢字辞典を使った学習などを通して指導していくようにしたい。その際、単に部首を覚えさせるのではなく、意味を考えさせたり、画数を確認させたりするなどの工夫が必要である。

調べたことをスピーチする

大問6(3)

<ねらい> 話の内容を捉え、自分の考えをまとめている。

目標値 40.0% 正答率 25.3% 差 ▲ 14.7 ポイント

指導のポイント 本問では、「条件1」より、ラッピング電車の「利点」と「効果」について明確に書くことが求められている。空欄「イ」が【場面②】にあることから、この部分から考えようとする生徒が多いであろう。しかし、【場面②】には「効果」については書かれているが、「利点」については書かれていない。「利点」について述べられているのは【場面①】であることに気が付くことが重要である。問題を解くとき、どうしても直接対象となる部分だけを見て考えようとする傾向があるが、全体を考える対象として、解いていくことを意識させたい。

「知識・技能」の定着に課題が残る

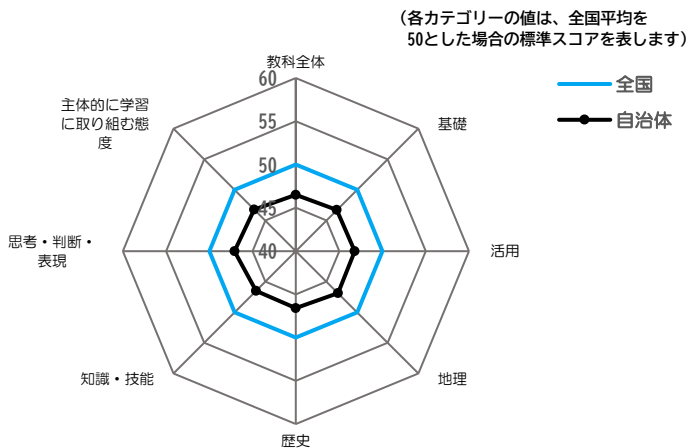
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		50.5	42.9	
基礎		55.5	48.2	
活用		40.5	32.4	
領域別	地理	49.0	41.7	
	歴史	52.0	44.1	
観点別	知識・技能	55.0	46.6	
	思考・判断・表現	44.6	38.2	
	主体的に学習に取り組む態度	40.5	32.4	

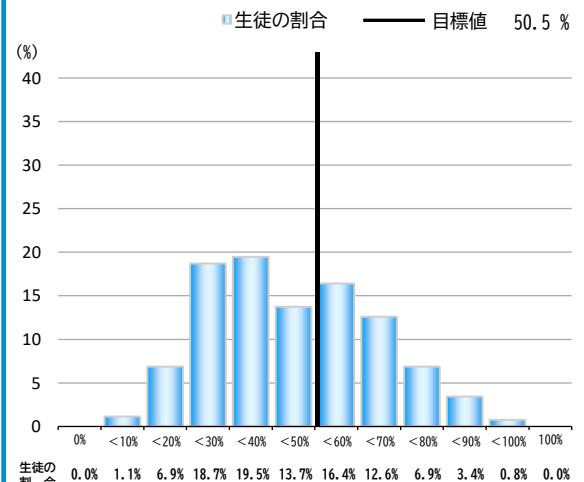
分析 コメント

- 中2地歴は、教科全体の正答率が42.9%で、目標値を7.6ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が46.6%で、目標値を8.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

世界各地の人々の生活と環境

大問3(1)

<ねらい> 乾燥した地域に住む人々による遊牧について理解している。

目標値 65.0% 正答率 42.4% 差 ▲ 22.6 ポイント

指導のポイント

世界各地における人々の生活の様子について、自然条件と関連付けて考察させる場合、同じような自然条件の地域をいくつか取り上げ、共通点と相違点を探させることも、有効な学習活動の一つである。その際、生徒自身に、取り上げる地域を世界地図で選ばせたり、調べる項目(衣服、食事、住居やその他の文化など)を挙げさせたりするなど、指導を工夫するとよい。本問では、西アジア、中央アジアなどの乾燥した土地では、水や草を求めて、季節ごとに大体決まった道筋を移動して家畜を飼育する「遊牧」が行われていることを確認させたい。

飛鳥時代～平安時代

大問6(2)

<ねらい> 大化の改新について理解している。

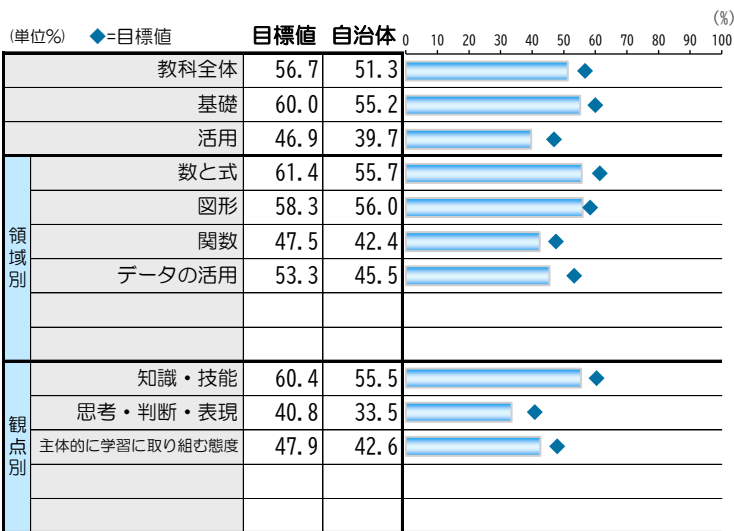
目標値 70.0% 正答率 49.2% 差 ▲ 20.8 ポイント

指導のポイント

645年、中大兄皇子と中臣鎌足が、蘇我氏の独裁的な政治に対する不満から蘇我蝦夷・入鹿親子を倒し、天皇を頂点とする新しい政治の仕組みをつくろうとしたこと(大化の改新)を理解させる必要がある。それまで豪族が支配していた土地と人々を、公地・公民として国家の直接の支配下に置こうとしたこと、政府の組織を整えて、権力の集中を目指したことについて押さえさせたい。聖徳太子の政治などとも関連させ、我が国が律令国家として形づくられていったことを大きく捉えさせることが大切である。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

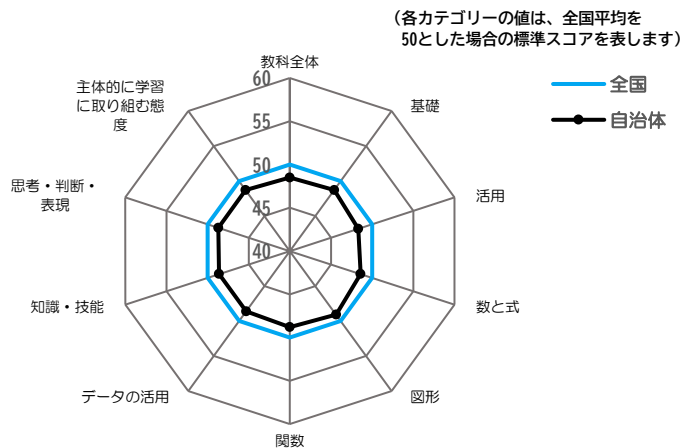
正答率一覧



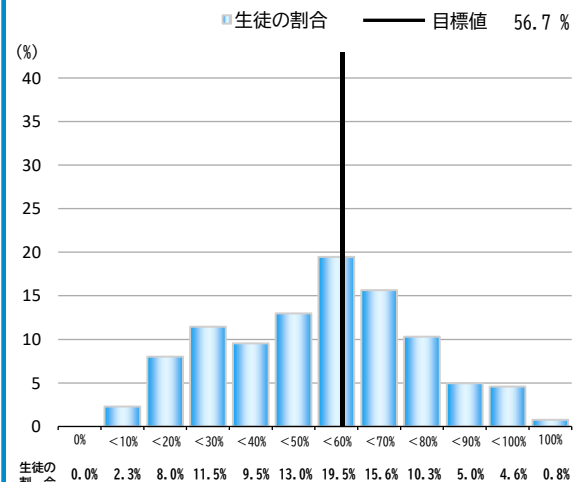
分析 コメント

- 中2数学は、教科全体の正答率が51.3%で、目標値を5.4ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「思考・判断・表現」が33.5%で、目標値を7.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

1 次方程式

大問7

<ねらい>

与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式することができる。

目標値 30.0% 正答率 4.6% 差 ▲ 25.4 ポイント

指導のポイント

本問では、初めに速さ・時間・道のりの関係について復習させる。その上で、妹が兄に追いつかれた時に2人の歩いた道のりが等しくなり、(妹の歩いた道のり) = (兄の歩いた道のり) と表されることを確認する。妹は兄より3分先に家を出発しているので、兄の歩いた時間は、 $(x-3)$ 分と表される。よって、 $60x = 80(x-3)$ と立式できることを理解させたい。立式するときには、何を x と置き、何についての方程式を立てるのか、そして一つ一つの数や文字、文字式が何を表しているのか、単位はそろっているかなどを確認するように指導するとよい。

データの分布の傾向

大問19(1)

<ねらい>

分布の範囲について理解している。

目標値 55.0% 正答率 40.1% 差 ▲ 14.9 ポイント

指導のポイント

誤答の主な原因としては、分布の範囲の意味を理解していないこと、分布の範囲をどのように求めればよいのかが分からないこと、計算間違いなどが考えられる。分布の範囲とは、データの散らばり具合を表す数値であり、(最大値) - (最小値) で表されることを確認して、計算間違いをしないように丁寧に計算させる必要がある。また、データの特徴を表す代表値としての平均値、中央値、最頻値や度数分布表、ヒストグラム、階級、階級値、階級の幅などの用語についても、併せて確認させておくとよい。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

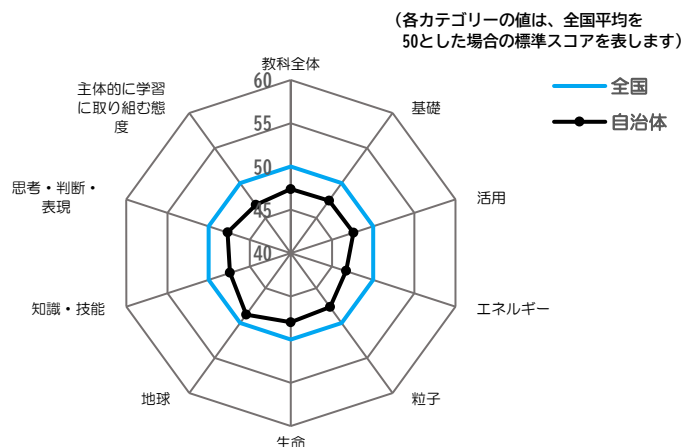
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		59.1	50.3	
基礎		65.7	58.3	
活用		45.5	33.6	
領域別	エネルギー	58.8	48.0	
	粒子	57.3	45.6	
	生命	65.0	60.1	
	地球	54.2	47.2	
観点別	知識・技能	68.7	60.8	
	思考・判断・表現	47.0	36.9	
	主体的に学習に取り組む態度	53.6	39.3	

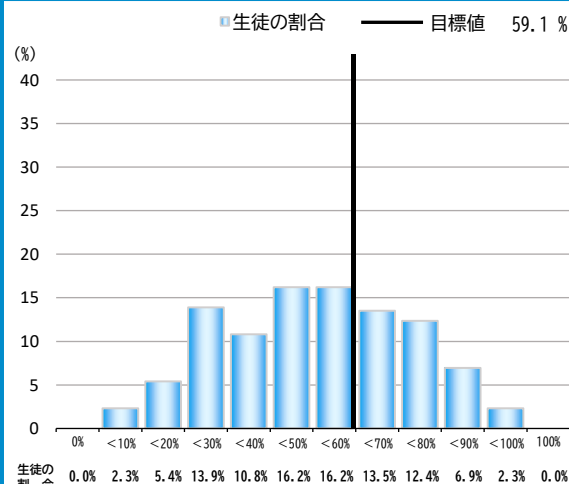
分析 コメント

- 中2理科は、教科全体の正答率が50.3%で、目標値を8.8ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が39.3%で、目標値を14.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

水溶液の性質

大問5(3)

<ねらい> 質量パーセント濃度の求め方を理解している。

目標値 50.0% 正答率 17.8% 差 ▲ 32.2 ポイント

指導のポイント 正答できなかった場合、立式の方法が分からず正答できないのか、質量パーセント濃度の意味を正確に理解していないのか、個々のつまずきの箇所に注意する必要がある。計算技能に課題がある場合は、数学科との連携が重要である。単に公式を覚えさせるだけではなく、濃さ（濃度）が溶液（溶質＋溶媒）中の溶質の割合で示されることを丁寧に説明したい。濃度の意味について理解が足りないと、溶質÷溶媒×100を質量パーセント濃度としてしまう場合があるので、注意を要する。

音の性質

大問13(2)

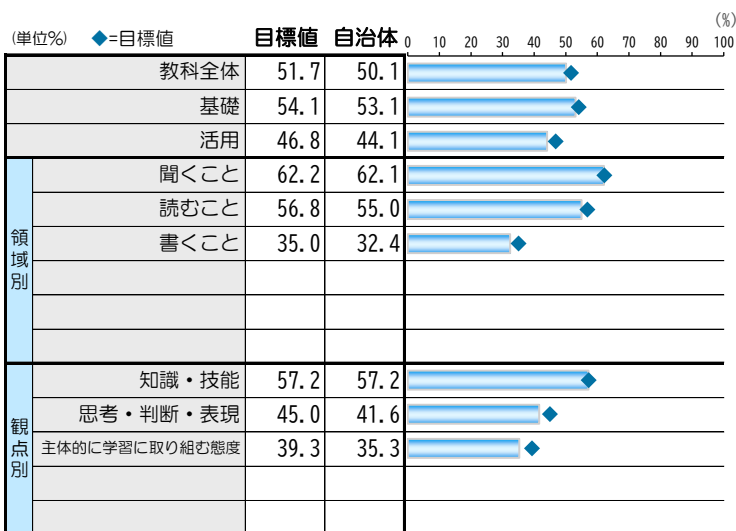
<ねらい> 音を使って距離を測定する装置のしくみを理解し、静止している車と壁の距離を求めることができる。

目標値 30.0% 正答率 7.7% 差 ▲ 22.3 ポイント

指導のポイント 小学校の算数で速さを学んでいるが、「距離÷時間」の公式を暗記しているのみという生徒がいる。また、速さの問題は、分数の計算を含み、単位当たりの数値を扱うために、苦手意識をもつ生徒も多い。さらに、数学と同じような手法で考えさせると、拒否反応を示す生徒もいるので注意を要する。誤答の生徒には、音の性質を確認して、車から出た音が時間経過でどのように進んでいるのかを考えさせたい。音が壁に到着すると、音の反射で車方向へ進むことに気付かせて、音の到着時間と壁までの距離の関係を理解させることが大切である。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

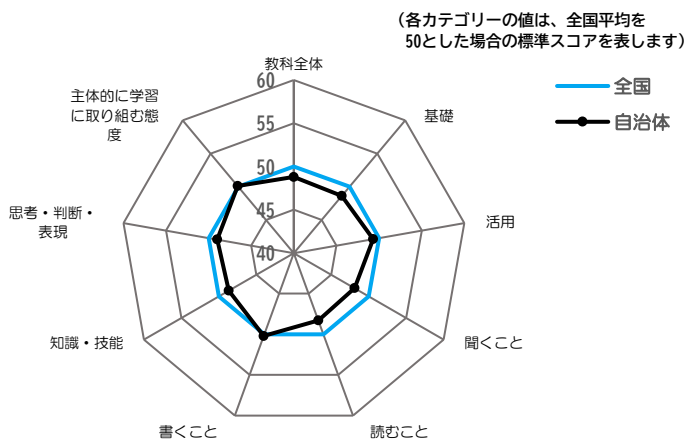
正答率一覧



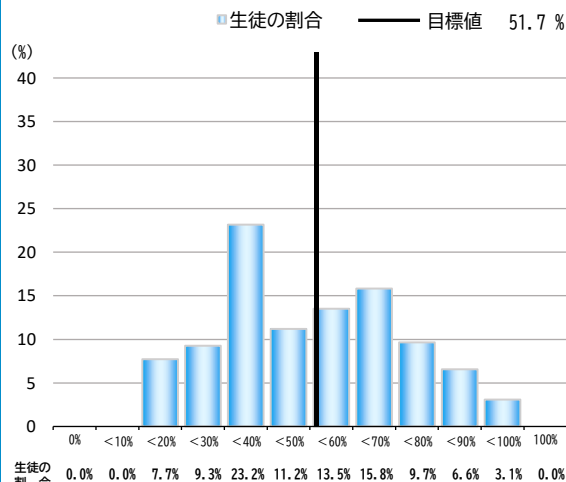
分析 コメント

- 中2 英語 A は、教科全体の正答率が50.1%で、目標値を1.6ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が57.2%で、目標値と同値だった。一方、「主体的に学習に取り組む態度」が35.3%で、目標値を4.0ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

単語の並べかえによる英作文

大問9(2)

<ねらい>

文の語順を理解し、正確に書いている。
(How manyの疑問文)

目標値 45.0% 正答率 33.6% 差 ▲ 11.4 ポイント

指導のポイント

疑問詞については、日常の授業の中で、直接生徒とのQ & Aなどを通して指導することが望ましい。本問では、“About twenty.”の一文から推測して、数を尋ねるためにHow many + 名詞の複数形の表現を用いることに気付くこと、その後は疑問文の形となることを文法的に把握していることなどが重要である。また、他の疑問詞についても、疑問詞が主語となる場合以外、その後に続く語順は疑問文の形になることを、第1学年のうちから定着させておきたい。

さまざまな英文の読み取り

大問7(2)

<ねらい>

プールの利用案内を読み、必要な情報がどの部分にあるかを把握して、適切な箇所を選んでいる。

目標値 30.0% 正答率 20.5% 差 ▲ 9.5 ポイント

指導のポイント

全国学力・学習状況調査の英語予備調査で出題された問題の類題である。授業において教科書で教えるときに大切なこととして、まず自分の力で読ませてみる、ということが挙げられる。多少分からない単語があっても、意味を推測しながら読み進めることが必要である。その際、「○○を示している箇所に下線を引いてみよう」といった活動を取り入れることによって、自分で読み進める力を身に付けさせることができる。もちろん、その後は細かく解説して、自分の読解と比較させることが大切である。

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

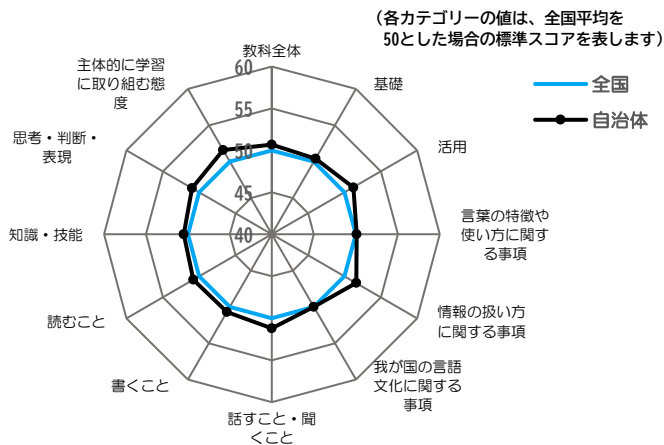
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		65.2	69.5	
基礎		67.9	70.6	
活用		60.0	67.4	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.6	66.4	
	情報の扱い方に関する事項	57.5	68.2	
	我が国の言語文化に関する事項	75.0	79.8	
	話すこと・聞くこと	68.3	74.7	
	書くこと	62.1	68.3	
	読むこと	65.0	71.1	
	知識・技能	65.0	67.8	
観点別	思考・判断・表現	64.4	70.5	
	主体的に学習に取り組む態度	58.0	66.9	

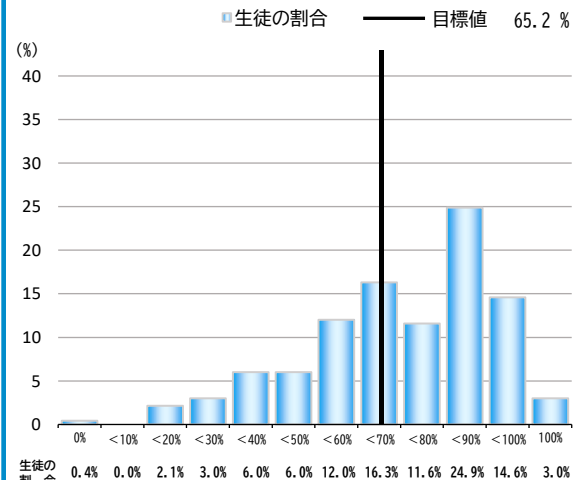
分析 コメント

- 中3国語は、教科全体の正答率が69.5%で、目標値を4.3ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が66.9%で、目標値を8.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を読む

大問2(1)①

<ねらい>

第2学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。

目標値 60.0% 正答率 55.4% 差 ▲ 4.6 ポイント

指導のポイント

第3学年では、第2学年までに学習した常用漢字に加え、更に残りの常用漢字の大体を読めるようにすることが必要である。今後社会生活を送る上では、さまざまな言葉の知識が求められる。辞書の恒常的な活用、新出漢字や熟語を用いた短文作り、漢字クイズの取り入れなど、学習活動を工夫して基礎知識の定着を図りたい。

発表の内容を聞き取る

大問1(1)

<ねらい>

論理の展開に注意して、話し手の考えを聞いている。

目標値 85.0% 正答率 85.0% 差 0.0 ポイント

指導のポイント

話を聞くときは、その内容を理解することが中心となるが、同時に筋道の通った話をしているのかということも考えながら聞くようにしたい。特に、本問は資料を見せながら説明する場面であり、分かりやすく筋道の通った話を展開できているかに注意して聞くことが求められている。そのような姿勢で聞くことにより、正答の内容を押さえることができる。話を聞くときには、話し手の伝えたい内容だけでなく、話の展開にも注意して聞くように指導していきたい。

「知識・技能」の定着に課題が残る

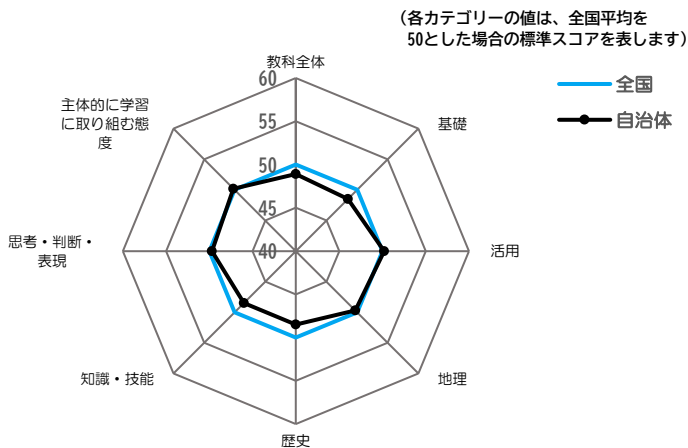
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
領域別	教科全体	53.3	50.8	
	基礎	56.9	53.9	
	活用	45.0	43.6	
	地理	56.0	54.8	
	歴史	50.7	46.9	
観点別	知識・技能	53.8	50.4	
	思考・判断・表現	52.9	51.4	
	主体的に学習に取り組む態度	45.0	43.6	

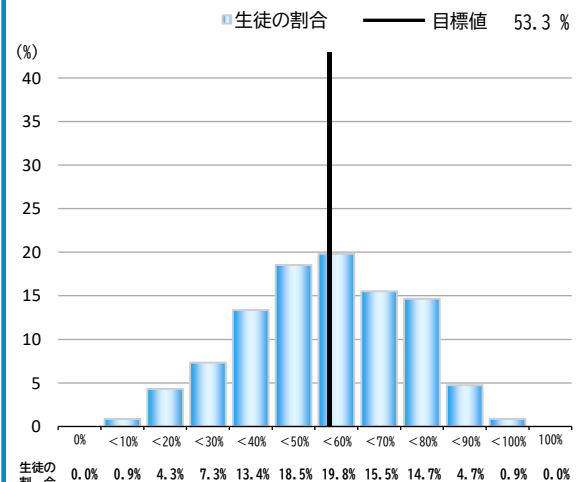
分析 コメント

- 中3地歴は、教科全体の正答率が50.8%で、目標値を2.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が50.4%で、目標値を3.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

日本の諸地域

大問2(4)

<ねらい> 中部地方の農業の特色について理解している。

目標値 30.0% 正答率 10.8% 差 ▲ 19.2 ポイント

指導のポイント

「日本の諸地域」の学習では、地域の特色を捉える五つの視点から、七つに区分された地域や、それらを統合したり、細分したりした地域の特色を学習する。どの地域についても、自然環境や人口、産業の特色を大観させる学習をはじめに行い、それぞれの地域的特色をしっかりと理解させる必要がある。その際、小学校の社会科で学習した、各都道府県の位置と名称について、必ず確認せたい。また、各地方の地形や気候の特色、その地方に属する都道府県ごとの、農林水産業や鉱工業などの特色を、統計資料を活用して押さえさせることも重要である。

江戸時代

大問5(3)

<ねらい> 蘭学について理解している。

目標値 65.0% 正答率 47.0% 差 ▲ 18.0 ポイント

指導のポイント

江戸時代後半、オランダ語で西洋の文化を学ぶ蘭学を通して、近代的な学問や技術が学ばれるようになった。享保の改革において、実学を重んじる徳川吉宗が、キリスト教に関係のない漢訳洋書の輸入を解禁したことにより、西洋の技術や学問が流入するようになり、蘭学が発展したことを理解させるとよい。また、杉田玄白や前野良沢らが、オランダ語の医学書を翻訳して「解体新書」を出版したことで、蘭学の基礎が築かれたこと、伊能忠敬がヨーロッパの天文学や測量術を学んだために、日本地図（伊能図）を作ることができたことも押さえさせる必要がある。

「知識・技能」の定着に課題が残る

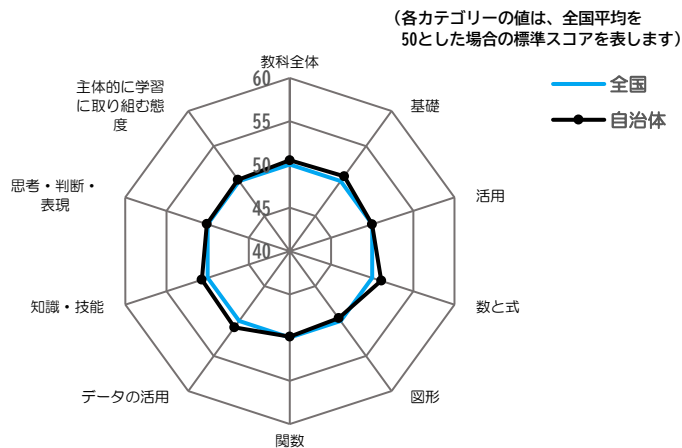
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
領域別	教科全体	56.1	52.1	
	基礎	59.6	55.4	
	活用	46.3	42.7	
	数と式	54.5	50.5	
	図形	56.0	46.4	
	関数	57.2	53.5	
	データの活用	57.1	56.7	
観点別	知識・技能	60.7	56.6	
	思考・判断・表現	45.0	41.2	
	主体的に学習に取り組む態度	47.2	43.3	

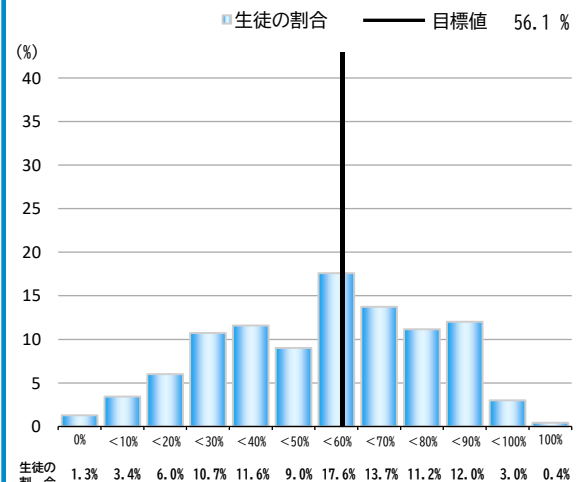
分析 コメント

- 中3数学は、教科全体の正答率が52.1%で、目標値を4.0ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が56.6%で、目標値を4.1ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

証明

大問20(2)

<ねらい>

問題の仮定や、すでに証明された事柄から、新たにわかることを説明することができる。

目標値 30.0% 正答率 5.6% 差 ▲ 24.4 ポイント

指導のポイント

誤答の原因としては、合同な図形の性質や平行四辺形になるための条件に習熟していないことが考えられる。これらを確認した後、アとイを埋めるヒントはどこにあるのか考えさせながら、【雄大さんの説明】を読ませる。アのヒントは1行目で、アには(1)の結論ED=BFが入り、イのヒントはア(ED=BF)とED//BFの2つで、イには「1組の対辺が平行でその長さが等しい」が入ることを理解させる。普段の指導では、仮定とは何か、どの性質により辺や角が等しいといえるのかなどを説明する過程の一つ一つについて、その根拠を意識させることが大切である。

1 次関数

大問9(2)

<ねらい>

2つの数量x, yの対応を表す表から、1次関数の式を求めることができる。

目標値 45.0% 正答率 32.6% 差 ▲ 12.4 ポイント

指導のポイント

1次関数における、xとyの対応表の見方について復習させる必要がある。1次関数の式を $y=ax+b$ とすると、aは変化の割合=yの増加量/xの増加量であり、xの増加量が1のときのyの増加量であること、及びbはy軸上の切片であるから、 $x=0$ のときのyの値であることを確認させることが大切である。また別解として、 $y=ax+b$ に表の中の2組のx, yの値を代入し、連立方程式を解いてaとbの値を求める方法についても理解させたい。

「知識・技能」の定着に課題が残る

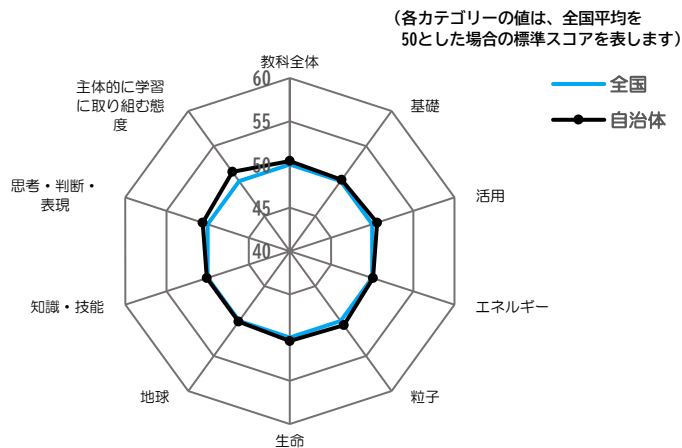
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		54.5	51.3	
基礎		58.2	53.9	
活用		47.3	46.2	
領域別	エネルギー	51.3	48.1	
	粒子	56.1	52.9	
	生命	61.1	58.7	
	地球	47.9	43.4	
観点別	知識・技能	58.9	55.1	
	思考・判断・表現	48.6	46.2	
	主体的に学習に取り組む態度	47.0	45.3	

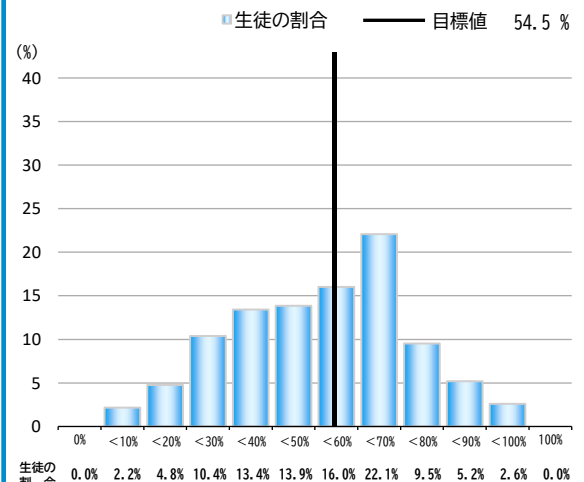
分析 コメント

- 中3理科は、教科全体の正答率が51.3%で、目標値を3.2ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が55.1%で、目標値を3.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

植物のからだのつくりとはたらき

大問5(2)

<ねらい> 葉の裏から出ていった水の量の求め方を指摘できる。

目標値 45.0% 正答率 16.9% 差 ▲ 28.1 ポイント

指導のポイント

蒸散は葉の気孔を通して扱うため、茎の気孔の存在に気付かない生徒がいる。このような場合、葉の裏から出ていった水の量は、Cの減少量そのものではないのかと考えるため、本問の選択肢に戸惑うことが考えられる。誤答の生徒には、表のB及びDの水の減少に注目させて、葉の表面や茎からも蒸散が起きていることを確認させたい。また、水の減少がどのような仕組みで起こったのかを丁寧に説明すると、生徒の理解が深まり、正答にたどり着けるようになる。

前線の通過と天気の変化

大問9(1)

<ねらい> 温暖前線と寒冷前線の前線面の断面と雲のようすを理解している。

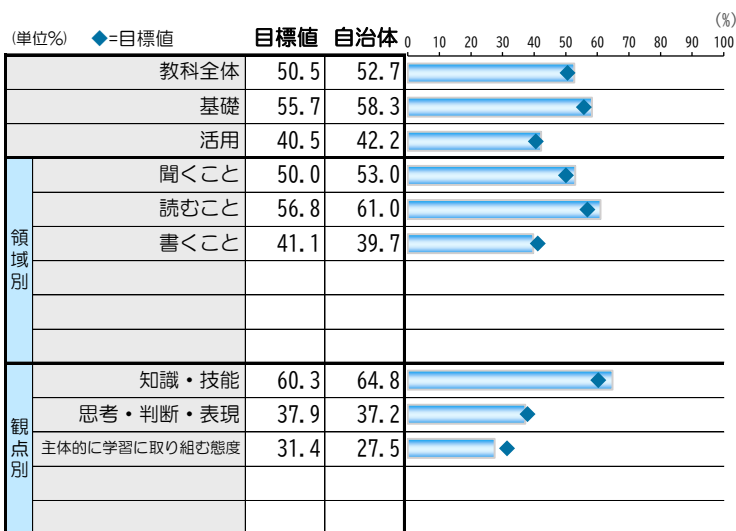
目標値 50.0% 正答率 31.2% 差 ▲ 18.8 ポイント

指導のポイント

本問では、①寒冷前線は、寒気が暖気に流入することで起こること、②寒気は暖気よりも密度が大きいため、暖気の下に潜り込み、暖気を押し上げながら進むこと、③温暖前線付近では、暖気の上昇が緩やかであるため、広範囲に乱層雲や高層雲などの層状の雲ができることを押さえさせる。温暖前線と寒冷前線については、天気図に、前線付近にできる雲や前線付近の風の吹き方をかき込ませるなどして、理解を図ることが大切である。さらに、温暖前線が通過する前から寒冷前線が通過するまでの、一連の気象の変化についても理解させたい。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

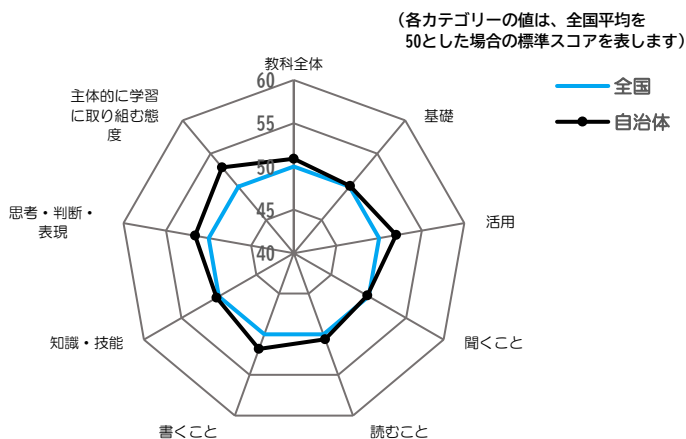
正答率一覧



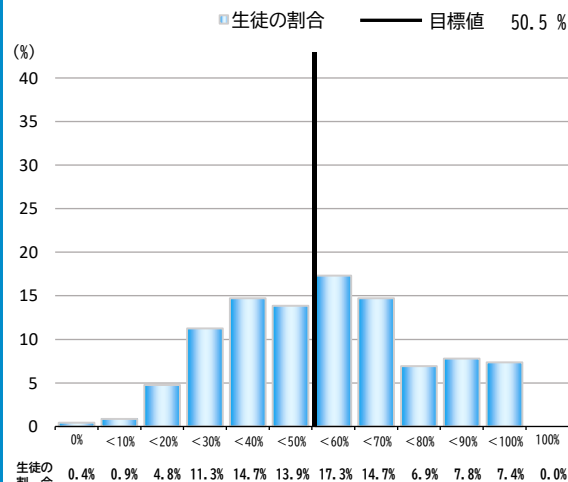
分析 コメント

- 中3英語Aは、教科全体の正答率が52.7%で、目標値を2.2ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が64.8%で、目標値を4.5ポイント上回った。一方、「主体的に学習に取り組む態度」が27.5%で、目標値を3.9ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

場面に応じて書く英作文

大問10(1)

<ねらい>

対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(部員数をたずねる)

目標値 25.0% 正答率 6.5% 差 ▲ 18.5 ポイント

指導のポイント

“Twenty members.”の一文から内容を推測して、「何人いるのか」を尋ねるためにhow manyを使うことに気付くこと、how manyの後ろは疑問文の形となることを文法的に把握していることなどが重要である。また、対話文では、対話全体の流れをつかむことが大切である。授業においては、オリジナルのスキットを作らせることで対話の流れを考えさせたり、教科書にある対話文の一部を空欄にして、そこに入る内容を推測させたりするとよい。

長文の読み取り

大問8(4)

<ねらい>

メールを読み、その概要を捉えて英文を完成させている。

目標値 25.0% 正答率 19.9% 差 ▲ 5.1 ポイント

指導のポイント

授業においてメールや手紙文を扱うときに、返信のメールや返事の手紙を書かせるなどのライティング活動を取り入れることが考えられる。その際、適切な英文を書くためには、元のメールや手紙の内容を正確に理解している必要がある。英文全体の内容を理解する手段として、各段落の中で何回も登場する語を探したり、段落を短い英語で表したりして、その段落で最も言いたいことを探し当てていくことも有効である。生徒の書いた英文については、文法事項やスペリングだけでなく、気持ちを込めた文章になっているのかも確認したい。